

自彊前進

題字 西村直子

NO. 49 令和6年3月12日(火)

新潟大学附属新潟中学校 学校だより

文責 教頭

※ 自彊前進…自ら努め励み、前に進むこと
(校歌3番の文言から)

人に会う「旅」

3月5日(火)から8日(金)の3泊4日で実施された沖縄の旅が終わりました。

4日間通して、実に多くの方々と会い、触れ合い、話し合いました。ガンマに入る際にお話をいただいたガイドさん、ホテルでの平和ワークショップでお世話になったおきなわ世界塾の皆さん、2日目の探究活動における、琉球大学附属中の生徒、アメリカンビレッジ、観光協会、資料館、博物館、工房、米軍基地等で出会った、中学生から大人まで、日本人に限らず外国の方々、そして民泊先の方々——本当に多くの方々と出会いました。まさに、「観光旅行」ではなく、人に会いに行った「旅」と言ってもいいでしょう。

この4日間、多くの方々から影響を受けたことでしょう。「影響を与える」という意味の英単語に **influence**/influ: əns/があります。最近よく耳にする「インフルエンサー」は、「世間や人の思考・行動に大きな影響を与える人物」のことで、**influence**の派生語です。この**influence**という単語は、元々は“in(～の中に)”と“flow(流れる)”という語が合わさってできた単語です。まさに沖縄で出会った人たちの人間性が皆さんの心の中に流れ込み、彼らの一言一句や所作、表情が心に残っているのではないのでしょうか。

人は人の生き方に触れ、自分もあんな風になりたい(生きたい)と思い、変わろうと思えるのだと思います。その意味では、あなたの隣にいる仲間、保護者、先生方もインフルエンサーになり得ます。それぞれの生き方から学び、自らの生き方に還元できる人ほど、魅力的な存在になるのではないのでしょうか。

また、今回の旅では、「平和」についてよく考えました。持続発展可能な世の中を考える上で、「平和」であることは必要不可欠です。1日目のガンマ入壕体験、そこで懐中電灯を消し、真っ暗闇の中で1分間の黙とうを行いました。夜には、ワークショップで平和についてじっくりと考えました。世界各地での紛争についての悲惨な状況が、連日報道されています。ワークショップでは、「どこか遠い場所で起こっていることで、自分事として捉えにくい」という発言が多く聞かれました。正直な感想だと思います。しかしながら、今回沖縄を訪問したことで、今後沖縄での基地問題等に関する報道に触れた際、これまでとは異なり、「お世話になった民泊の方々が暮らす沖縄における問題」と捉え、少なからず自分事として受け止めることができるのではないかと思います。

「平和」を創り出すのは私たち一人一人です。国同士の戦争であっても、結局は一人一人の関わりが積み重なってのことなのです。Think Globally, Act Locallyという言葉があります。「地球規模で考え、置かれた場所で行動する」といった意味です。今回の経験を生かし、今あなたの隣にいる仲間を大切に、「平和」な状態を創り出していくことが大切なのです。そして、将来皆さんには国内外問わず、是非様々な人達とつながり、世界のどこかで起こっていることを、自分事として捉えることができる人になってもらいたいです。

附中生は、『旅を通して真の附中生になる』——今回の沖縄の旅での経験が、自分自身の生き方を求めて学び続ける上での試金石となることを切に願っています。

2年生の皆さん、本当にお疲れさまでした！

